



アルマガモス

上級マーゴで、体長は3m近い、

凄まじい力と圧倒的防御力を誇る、

その防御力はアルマガモスの身体が非常に重い金属の様な物質で構成されている事に起因している。

反面その動きはかなり鈍重である。



相手が自分より早く動く相手だった場合、このマーゴの尾部から小型のマーゴが分離する、この小型マーゴは防御、力のバランスが取れており、動きも素早い。

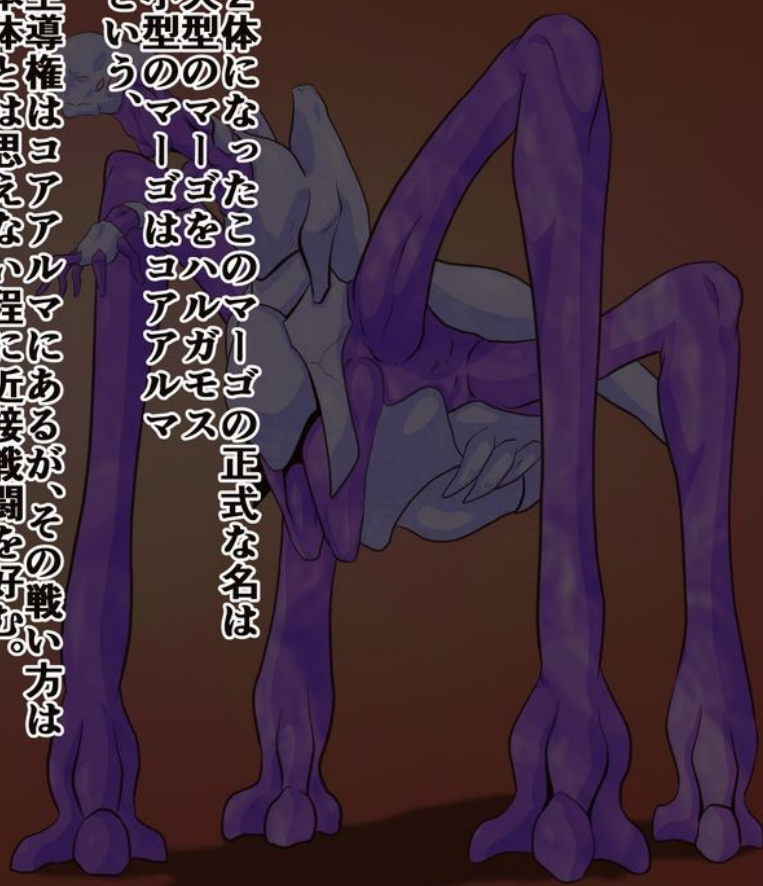
一見小型マーゴが本体のマーゴを援護する様に見えるが実はこの小型マーゴが本体である。



2体になったこのマーゴの正式な名は
大型のマーゴをハルガモス
小型のマーゴはコアアルマ
という、

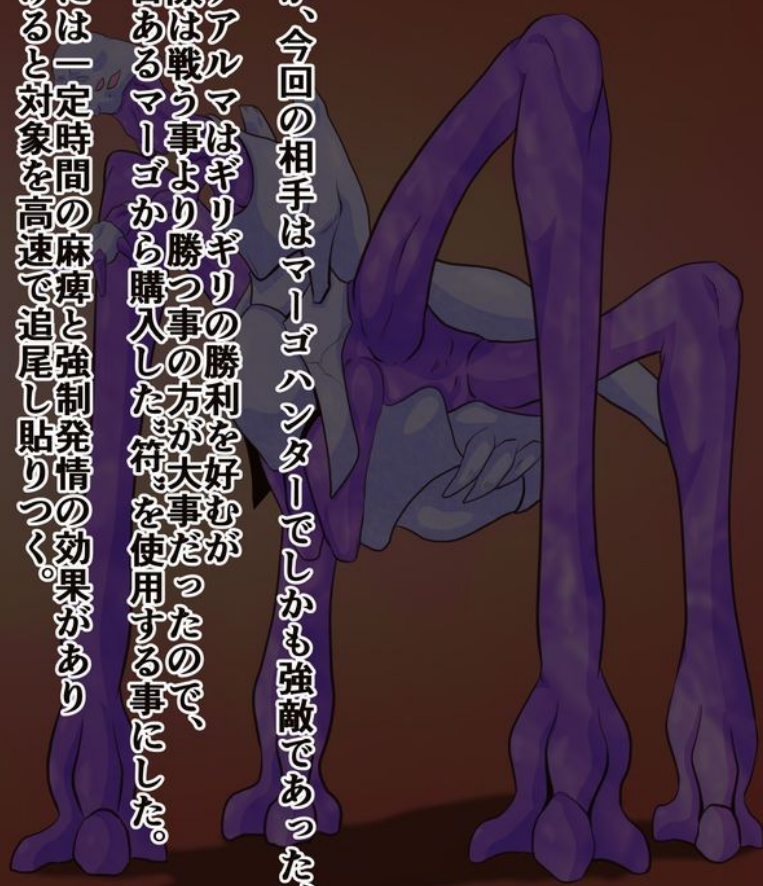
主導権はコアアルマにあるが、その戦い方は
本体とは思えない程に近接戦闘を好む。

それはコアアルマはギリギリの所で敵の意表を突き、
混乱する相手を組み敷く事で得る勝利に
何より快感を感じる嗜好を持っている為だ。



だが、今回の相手はマーゴハンターでしかも強敵であった、
コアアルマはギリギリの勝利を好むが
実際は戦う事より勝つ事の方が大事だったので、
先日あるマーゴから購入した符を使用する事にした。
符には一定時間の麻痺と強制発情の効果があり
投げると対象を高速で追尾し貼りつく。

説明通り符を張り付けられたマーゴハンターは
全身に電気が走ったようになると
アニマウエポンが消滅、コアアルマはその隙を突く。





く……ら

コアアルマの発光する手足は
マインゴが獲物の体の動きを止める為に使う
バインドオーラを凝縮し強力にしたもので、

マインゴハンターといえどこの手足に絡めとられれば、
その箇所の自由を確実に奪う事が出来る、



マーゴハンターは逃れようともがく、

麻痺の効果はもう切れたようだが
護符で発情させられた為上手く力が出せないようで
その状態でコアアルマの拘束から逃れる術はなく、
彼はもがく彼女の背中を眺め、組み敷く優越感を感じていた。

そして次に頭部から触手を伸ばす。

その先端には鋭い針が輝いていた、
その針は彼女の首の後ろに照準を定め……。

く……ら

キラ

キラ

(…え?…あ…なんでっ!?)

マーゴハンターは常に体の周辺にバリアを張る事が出来る、
とりわけアイシヤのバリアはマーゴハンターでもトップクラスの耐久力を誇り、
刃物や針等では到底貫けない。
箒なのだがアイシヤはバリアを張っているにも関わらず
自分の首が何かに貫かれたような感覚を覚えた、
しかも痛みなどが一切無い事に困惑した。





コアアルマは自身の能力を伸ばす事に執着しており、その為ならば他のマーゴに師事し技を習得する事もした。

これまで数多くのマーゴから教えを賜ったが、自分の物にした能力が2つある、その一つがこの

ブリガンテニードルである。

この針は淫気を凝縮したエネルギーニードルで、
実体は無い、なので例え相手が強力なバリアで防御していたとしても、
容易く貫く事が出来る。

あ……あえ

……あ♡

ズ

ズン♡

ただこの技は大変難しく
教えを乞うたマールゴは多種多様なエネルギー武器を作れたが
コアアルマは10年近い時間をかけて
ようやくこのく針だけ形にする事が出来るようになった。

針は脊椎に打ち込むと淫気を相手の体内に注ぎ込む、
貫かれている痛みは無いが流れ込むのは濃厚な快感で、
いかなる強者といえど、
物理法則を無視して中枢神経に直接流される淫気に抗う術は
無い。



ハルガモスの人の上半身の様に見える部分は伸縮自在で、
その舌も伸縮自在である。
体液は強力で持続性のある媚薬で、
浸透力も高く皮膚に塗布するだけでも十分な効果がある、

唾液の中で煌めく物質は、この媚薬を更に凝縮し強力にしたものがある。
その成分は旨味と甘みが絶妙で、
人間にとってかなり美味しいものと感じるように調整されている。

ニードルにより感覚を狂わされた状態でこの味を拒否する事は
至難である。

尚、ハルガモスの媚薬は浸透力が高く、粘膜からの吸収は危険である。

そしてコアアルマがこれまでに
習得した技がもう一つある。
それは――。



